

第60回試験研究成果発表会（野菜Ⅲ）発表概要

【日 時】 令和5年1月24日（火）13:00～16:55

【場 所】 香取合同庁舎大会議室（香取市佐原イ92-11）

発表1 成果発表

サツマイモ「べにはるか」ポット苗育苗における苗質及び増殖効率の向上

水稻・畑地園芸研究所 畑地利用研究室 高橋 紘輝

近年、サツマイモの育苗は、ウイルスフリー苗を利用したポット苗育苗が主流となっています。千葉県的主力品種「べにはるか」は伸長速度が遅く、増殖効率が低いことに加え、節が多く、曲がった苗になりやすいことが問題となっています。そこで、今回は「べにはるか」のポット苗育苗における苗質及び苗の増殖効率を向上させる栽植方法、採苗方法、温度管理方法等を紹介します。



曲がりのある「べにはるか」苗（左、中央）と、良好な苗（右）



遮光ネットとべたがけを利用した「べにはるか」苗の育苗の様子

発表2 成果発表

「シルクスweet」の在ほ日数及び貯蔵期間と食味の関係

流通加工研究室 飯嶋 直人

焼きいも需要の高まりから、粘質系サツマイモ「シルクスweet」の栽培面積が増加しています。しかし、「シルクスweet」を貯蔵した時の甘さ及び肉質の推移は不明でした。そこで、「シルクスweet」の貯蔵に伴う食味変化を調査し、併せて「シルクスweet」の食味関連成分を明らかにしましたので紹介します。



収穫した「シルクスweet」



「シルクスweet」の焼きいも

発表3 成果発表

近赤外分光装置によるサツマイモ充実度測定技術の開発
～美味しさを光センサーで瞬時に測る～

流通加工研究室 白井 徳一

サツマイモは、収穫時の糖及びデンプン含量等の充実度が貯蔵性や貯蔵後の食味を大きく左右します。簡便な測定方法により充実度の推定が可能となれば、貯蔵施設への入庫前に貯蔵性の判定が可能になる他、栽培技術改善や良食味サツマイモの差別化販売等に活用できます。

そこで、携帯型近赤外分光装置を使ってサツマイモを切断することなく、短時間に充実度を測定できる方法を開発しました。



携帯型近赤外分光装置



非破壊測定の様子

発表4 情報提供

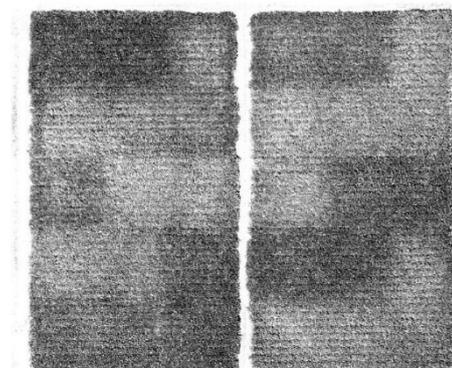
ドローンを用いたサツマイモの草勢評価 ～空撮画像から得られる情報～

最重点プロジェクト研究室 高野 幸成

ドローンを用いたサツマイモ試験の取り組み状況を紹介します。ドローンによる空撮画像の解析データから得られる情報の数々（植被率、草高、植生指数等）の中から、サツマイモの草勢評価に有効な指標について解説します。



ドローンによる空撮



空撮画像データによる草勢評価マップ

発表5 情報提供

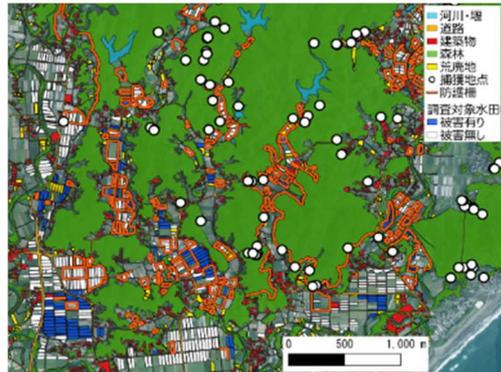
イノシシ被害発生 の 要因となる 景観構造 ～事前に行う有効な対策とは～

暖地園芸研究所 生産環境研究室 内田 耕陽

イノシシ被害対策として、①生息環境の管理、②防護柵の設置、③捕獲が有効とされていますが、全ての圃場に対策を行うのは労力とコストがかかります。そこで、令和元年～3年に南房総市で行った水稻のイノシシ被害調査の結果から、被害の出やすい圃場周辺の景観構造を整理し、対策を優先すべき圃場の環境要因を明らかにしたので紹介します。



山に生息するイノシシの群れ



景観構造とイノシシ被害地点マップ

発表6 成果発表

春夏どりニンジンの抽台発生を軽減するトンネル除去時期

水稻・畑地園芸研究所 畑地利用研究室 山下 雅大

春夏どりニンジンのトンネル栽培において、2月中下旬に播種し、6月下旬から7月上旬にかけて収穫すると収穫時期に抽台が発生しやすく、年や圃場によって問題となります。抽台の発生には温度が影響することからトンネル除去時期に着目して試験を行い、現地の慣行よりもやや早い、6葉期（4月20日頃）にトンネルを除去することで、根部の肥大を抑制せずに抽台の発生を軽減することを明らかにしました。



抽台したニンジン



圃場での抽台発生の様子

発表7 成果発表

作型に応じたニンジン根部しみ病害（乾腐病・しみ腐病）の防除手段

病理昆虫研究室 青木 由

千葉県のカニンジン栽培では、乾腐病としみ腐病による根部しみ症被害が問題となっています。いずれの病気も土の中の病原菌が原因ですが、土壌消毒だけでは被害を十分に防ぎきれないケースがあります。そこで、秋冬どり栽培における乾腐病の発生しにくい品種を明らかにしました。また、春夏どり栽培では、土壌消毒に加えて病気の発生しにくい品種及び播種時期をずらすことでしみ症被害を軽減できることを紹介します。



乾腐病による激しい裂開症状



両病害に共通するしみ症状

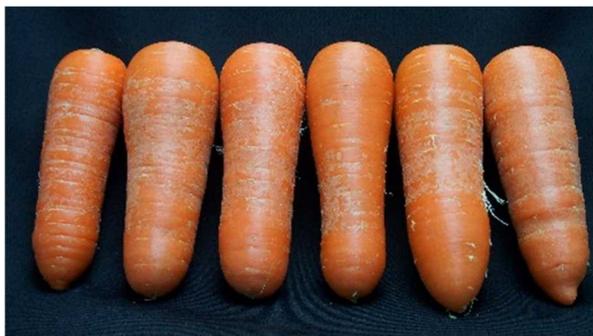
発表8 情報提供

ニンジンの端境期出荷に対応した貯蔵技術の開発 ～秋冬ニンジンを春に出荷する～

流通加工研究室 白井 徳一

近年、農家の規模拡大及び労力軽減のため貯蔵施設を導入し、年内収穫したニンジンを端境期の3～4月に出荷し、出荷量を分散化させる事例が見られます。しかし、長期間にわたる貯蔵技術に関しては、品種と貯蔵温度との関係等が不明でした。

そこで、11～1月に収穫した秋冬ニンジンを端境期まで貯蔵し、品質の変化を調べ、適切な収穫時期及び温度、品種等を明らかにしました。



貯蔵後のニンジン



貯蔵中の様子

発表9 成果発表

北総地域に適するトンネル冬どりコカブの優良品種の選定（第69回千葉県野菜品種審査会）

水稲・畑地園芸研究所 畑地利用研究室 高橋 紘輝

千葉県のコカブは、柏市及び香取郡東庄町を中心に複数の作型を組み合わせる周年栽培されており、特にトンネル栽培の冬どりコカブは主要作型に位置付けられています。産地からは、収量及び品質が良好で、低温伸長性に優れ、凍害に強く、揃いの良い品種が望まれているため、11月播種のトンネル冬どりコカブを対象とした第69回千葉県野菜品種審査会において、北総地域に適する優良品種を選定しましたので紹介します。



1位入賞の「新雪」



収穫物審査の風景